

「抄録作成のポイント」



第 52 回埼玉県医学検査学会
学術部 鈴木 隆

第 52 回埼玉県医学検査学会で学術部を務めさせていただきます、JCHO 埼玉メディカルセンターの鈴木隆と申します。今回は発表の際に必要な抄録、こちらを作成するためのポイントについてお伝えします。

発表することが決まったらまず始めに演題名を考えましょう。演題名は内容がイメージできるようなもの、明確かつ簡潔にし、長くなる場合には副題を使用します。抽象的なものや略語の使用は控えましょう。演題名さえ決まれば、過去の抄録集を参考にして作り上げていくことが近道となります。症例報告や研究・検討により若干書き方は変わりますが、基本的には「はじめに・目的」「症例・方法」「考察・結果」「まとめ・結語」の4つで構成されています。

【はじめに・目的】自分が何を明らかにし伝えるのか、簡潔にまとめます。

【症例・方法】症例の紹介や検討方法、データ抽出・評価方法について記載します。

【考察・結果】得られた結果から考えられることを他の症例や今回の方法と結びつけ考察し、結果では調査・評価した項目の数値や事実を明確に記述します。

【まとめ・結語】結果から言えること、言いたいことをまとめ、結果をどう解釈したのかを伝えることが大切です。

抄録を作成したら必ず先輩や上司にチェックしてもらいましょう。誤字脱字や文章のつながりなど、自分では気がつきにくいことも第三者の目でみると発見できます。抄録の場合、句読点はカンマ「,」、ピリオド「.」を使用してください。また、抄録には文字数の制限があり、本学会では本文で 26 文字×18 行×2 段=936 文字以内です。オーバーした場合は事前に伝えておくべき内容や重要なことは残し、当日の発表時でも構わない内容は削除するなどの対応が必要となります。

抄録受付は令和 6 年 5 月 1 日（水）から 7 月 17 日（水）までとなっております。第 52 回学会テーマは Challenge! です。多くの発表者の登録をお待ちしております。